

令和 5 年度 第 1 回 新潟市子ども・子育て会議 幼保部会
会議概要

開催日時	令和 5 年 8 月 2 9 日 (火) 午前 1 0 時 0 0 分～午前 1 1 時 0 0 分
会 場	新潟市役所本館 6 階 第 1 委員会室
出席委員	小池委員 (部会長)、斎藤委員、椎谷委員、深海委員、平澤委員、 (鈴木委員欠席)
事務局等	こども未来部長、保育課長ほか同課職員 6 名
傍聴者	0 名
議事内容	<p>【議事】</p> <p>(1) 令和 6 年度に移行等を予定する特定教育・保育施設等について</p> <p>○事務局より、令和 6 年度移行予定施設、閉園予定施設、定員の変更予定数等について説明 (資料 1-1、1-2 により説明) したうえで、委員の意見を聴取しました。</p> <p>○委員からは、下記ご意見がありました。</p> <p>【閉園予定施設について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 3 0 年に市立保育園配置計画で策定された施設数を概ね 2 0 年後に半数程度とする基本的な方針は根本的に変わってないのか、少子化の現状を鑑みてまた見直しをするのか。 →市立保育園配置計画の基本方針は今のところ大きな変更はないが、もう少しスピード感をもつ必要があるということを課題としている。スピード感をもっていくための手法について他都市の事例も勉強しながら進めていく必要があると考えている。(事務局) <p>【定員について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新・すこやか未来アクションプラン第 2 期計画における教育・保育の量の見込み 計画値と実績値の比較 (資料 1-4) における秋葉区の R6.4.1 の 1・2 歳児定員の計画について、定員よりも利用数が多くなっているが、必要な定員数が足りていないということか。 →計画上ではマイナスとなっているが、実績としては、不足が生じる見込みはない。もし定員が不足する見込みとなったときは、定員変更の調整や、受入れに余力のある園において柔軟な受入れを図ることで、待機児童を出さない取り組みを進めていく。(事務局)

【その他（報告）】

（１）市立保育園配置計画の進捗等について（報告）

○事務局より、市立園の民営化・統廃合等の進捗状況について報告（資料2により報告）したうえで、委員の意見を聴取しました。

○委員からは特に意見はありませんでした。

【その他（議事・報告以外の意見・質問等）】

・保育コンシェルジュが子育て支援センターに出向いて保育制度やサービスの説明等を行う取り組みは、非常に良い取り組みだと思う。全区で行われているか。

→現在保育コンシェルジュが全ての区にそれぞれ1～2名配置されている。基本的には区役所にいるが、子育て支援センターへ出向いての入園相談等も行っている。月1回程度、保育コンシェルジュが集まる研修の場があり、それぞれの地域の状況や相談内容を共有し、課題への対応ができる状況になってきている。（事務局）

・国が検討している「こども誰でも通園制度」について、まだはっきりと決まっていない段階だが、これから制度がどうなっていくのかと感じている。どのように考えているか。

→全国いくつかの都市でのモデルをみると、週2、3回の定期的な一時利用を受けるような制度であり、保育所で地域の子育て支援を実施するような意味合いが強いと思っている。そうなると、保育士の確保や慣れない子ども、保護者への対応等が課題となる。また、都市の規模によっては希望者が殺到してしまい、一時預かりに近い形となってしまうため、募集の取り方も課題となっている。新潟市はエリアによっては一時預かりが利用しづらいところもあるため、単純に誰でも受け入れるというのは難しいところだが、要件を設けるとなると「誰でも」の受け止め方について丁寧な説明が必要となってくる。（事務局）

・「こども誰でも通園制度」によって保育の要件なく誰でも利用できることになると子育て放棄につながるのではないかという懸念がある。ある程度条件を付ける必要はあると思う。もし新潟市がやるのであれば子ども中心という考えでやっていただければと思う。